

研究計画書

ゼミ名	高ゼミ II	チーム名	NEXT INNOVATION
タイトル	企業のグローバル化と日本電機産業の競争戦略		
テーマ群	d) 国際経済、 e) 産業・企業		
メンバー	中田博之 近藤駿介 谷口和希 北嶋円香 山本佳奈 佐藤秀崇 中野佑美 三好俊太 渡慶次勇太		
研究計画内容	<p>私達が今回研究するテーマは、「厳しい国際競争の中で、比較優位を失いつつある日本の電機メーカーがどのように復活を目指すのか」です。</p> <p>2005 年ころまでは高い技術力やブランド力・顧客のニーズで日本の電機産業は世界でもトップのシェアを占めていました。しかし、2008 年のリーマンショックによる販売不振、円高による輸出低迷と新興市場のニーズへの対応の遅れなどの結果、今日の日本の B to C 電機産業は大きく落ち込んでいます。</p> <p>その一方で台頭してきたのが韓国のサムスン電子です。韓国は 1985 年のプラザ合意による円高ウォン安のおかげで対米輸出が急増し、その結果、多くの韓国の輸出企業が成長しました。家電産業では、特にサムスンとの競争が熾烈化したため製品のコモディティ化が進み、今後一人一人の消費者をターゲットにした B to C ビジネスはますます低迷することが予測されます。</p> <p>そこで、日本企業が今後どのような方法で立ち直るかについて研究してきました。日本企業がものづくり志向で高い技術力に固執し、なかなか業績を伸ばせなくなっている打開策として、まず B to C から B to B への転換を考えました。実際に日立や東芝のような、企業に対してのビジネスを大きく展開している B to B 企業は安定して収益を出しています。そこで、これが浮上のきっかけになるのではないかと、また、B to C では盛り返すことができないのかという課題をアップルやサムスンの経営戦略を参考にして検討し、もう一度メイドインジャパンのブランド力を取り戻し、復活するための戦略を研究、提案していきたいです。</p>		